



## 夜道を歩く

---

主観でものを観ていく、例えばデジカメの液晶モニターを眺めながら、酒を飲んで酔いながらカメラを向ける、その時の自分には主観しか無い。そして写真には主観ではない世界が写っていた。この写真は表参道のイルミネーション、それを液晶モニターを眺めていた時に見えていた主観だけの世界に戻していく。その時の自分のイメージ、主観、記憶、いくらか近づけたのかな、この写真は大きく手を加えたものではあるんだけど、それは自分の本能的な部分に忠実になろうとした結果とも言えるんじゃないかと思っている。フィクションだけどそれはノンフィクションでもある、どこにも存在しない表参道、イルミネーション、真冬の夜の帰り道。